

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成21年10月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502074
法人名	有限会社 エアステス
事業所名	Myほ〜む愛華夢
所在地	〒004-0801 札幌市清田区里塚1条2丁目12番11号 (電話) 011-885-5501

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年9月7日	評価確定日	平成21年10月6日

【情報提供票より】 ( 21年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 5人	非常勤 2 人, 常勤換算 5.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造2階建て 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円			
その他の経費(月額)	光熱水費 20,000 円 暖房費 8,000 円 (11月~3月)			
敷金	有 ( 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 110,000 円) 無 有りの場合償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 9月7日現在 )

利用者人数	5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1		名	要介護2		2 名
要介護3	2	名	要介護4		1 名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 83.6 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	幌南病院・ごう在宅クリニック・美園いとう内科・南青洲病院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一般住宅を改装した親近感のある家庭的な事業所である。開設6年が経過し、地域密着型事業所としての地域交流も自然体で行われている。理念の具現化に取り組み、統一された方向性を持ってチームケアを実践している。日常ケアは、心の交流を基本に意向表出や自己決定を促し、その人らしい暮らしの実現に職員の気付きがきめ細かく反映されている。楽しむ機会は多彩で、町内会日帰り温泉旅行やボランティアを活用した雪祭り見学、また野菜作りやテラスでの焼き肉会など、豊かな暮らしを支援している。管理者と職員はケアの実践から学び、吸収する柔軟な姿勢を持ち、利用者は「我が家」で、それぞれの役割を担いながら自由に安心感のある日々を過ごしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった「居心地良い共用空間」への配慮について、職員間で検討し、脱衣室や居間に設えられた事務スペースの整理整頓を実施し、利用者がより安全で居心地良く過ごせる工夫をし、具体的な改善策を講じている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は、評価の意義や目的を理解しており、全職員が分担して評価シートに取り組み、全体として纏め上げミーティングで検討、確認を行っている。日々のケアサービスをふり返り、質の向上に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎に定期的に開催し、事業所の現状や活動内容、防災関係などが報告されている。参加メンバーからも情報提供を頂いて活発に協議され、会議でのアイデアや意見が活かされた取り組みが実施されている。また毎回身近なテーマでの情報発信を行い、サービスの質向上に向けた会議の充実に積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との関係性を重視し、家族からの意見や要望を話し合える雰囲気や機会作りに努めている。家族からの意見などは速やかに検討し、より良い改善に繋がるよう対応している。契約書類に内部、外部の苦情窓口を明示し、意見箱が設置されている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅地の事業所として、地域住民の理解を頂いて良好な関係が構築されている。清掃活動や町内会行事に積極的に参加し、災害時の連携体制も築かれており、地域の一員としての活動を行いながら双方向の交流を進めている。散歩での会話や近隣の子供達の来訪、菜園やベランダ越しに声を掛けて頂くなど地域の方々とは、ごく日常的なふれあいが行なわれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅地の事業所として、地域住民の理解を頂いて良好な関係が構築されている。清掃活動や町内会行事に積極的に参加し、災害時の連携体制も築かれており、地域の一員としての活動を行いながら双方向の交流を進めている。散歩での会話や近隣の子供達の来訪、菜園やベランダ越しに声を掛けて頂くなど地域の方々とは、ごく日常的なふれあいが行なわれている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人と統一した「ほ～むに関わる全ての人々の明るい笑顔と活気あふれる生活」という理念を掲げており、運営方針、事業目的に地域との関係性を重視を盛り込み、地域に密着したサービスの提供に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、採用時研修で新職員に理念の理解を指導し、またミーティングや日常ケア場面の中で理念の共有を図りながら、全職員が一致した理解の下で、理念の具現化に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街のホームとして、地域に受け入れられ、密接なお付き合いがされている。町内会行事や清掃活動にも積極的に参加し、日々の散歩時の会話やおすそ分け、子供達や地元の方々がベランダから気軽に立ち寄って下さるなど、自然体での交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用法の理解の上で、全職員で評価項目シートを分担し、全体として管理者が纏めている。評価で見出された課題は、職員間で検討し具体的な改善に繋げ、サービスの質向上に向けた努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定期的開催し、事業所から具体的な報告が行われ、参加メンバーからも情報提供を得て活発に協議し、意見やアドバイスを運営に反映させている。欠席メンバーに資料等を持参し、また毎回身近なテーマでのレクチャーを行い、会議の充実に積極的に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、報告書類の持参提出を始め、行政担当職員の事業所来訪などの機会を捉えて、各種相談や利用者状況、ホームの実情などを共有し、協働関係を作りつつサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月のホーム便りを作成し、来訪時や電話などで日々の暮らしぶりや健康状態を報せている。金銭に関する収支は郵送または来訪時に報告を行い、利用者の状態変化には速やかに連絡、報告を実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族が出席し、意見を表す機会を設けると共に、日常的に意見や要望を話し合える雰囲気大切に、関係作りに努めている。契約書類に内部・外部の苦情窓口を明示し、出された意見は、前向きに検討してより良い改善になるよう対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、法人内の異動は最小限に考慮されている。やむを得ない交替や新職員採用の際には、管理者始め職員が指導・サポートし、利用者への影響やダメージを防ぐ配慮を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、事業所の現状や課題に即した内容の勉強会を毎月の会議に合わせて実施している。各種外部研修を案内し、研習後はより効果的な学びに繋がるようレポート提出や報告の場を設けている。法人内の他のグループホームへの実地研習など実践的なスキル向上の機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区内の管理者会議に積極的に出席し、同業者との交流、情報交換を行っている。職員は交流会や他のグループホームの視察、勉強会に参加する機会を持ち、事業所や地域全体のサービス水準の向上に向けて取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族、本人との面談や見学、レク参加を通して、本人と利用者双方の関係も見極めながら、ホームの雰囲気に馴染んでもらう為の体験利用を勧めている。入所後は暫定ケアプランを立て、見守りながら本人の安心感に配慮し適切な利用開始の調整を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は暮らしの中で役割を持ち、得意ごとを行いながら生活している。料理や裁縫、慣わしなど利用者一人ひとりの経験から培われた生活の知恵を教えられる事も多く、普通の家庭に見られる共に過ごし、互いに支え合いながらの介護が実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者一人ひとりに応じた言葉掛けにより、希望や意向表出の促しを丁寧に行っている。記録に記載し職員間での情報共有を図ると同時に、その人の望む暮らしの検討に繋げ、日々のケアに活かしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況は、センター方式を活用して半年ごとにアセスメントを実施し、情報収集、現状確認を行っている。家族の来訪時などに意向を伺い、管理者（介護支援専門員）の指導の下、利用者個々の担当職員を中心に、全職員でのカンファレンスを通しチームとして、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に対して、職員の気づきを記載する事により毎日のモニタリングを可能とし、1ヶ月毎の評価を行い、計画に応じたケアの実践や本人の状況・変化の過程を詳しく把握している。3ヶ月に1度の定期見直しを行い、状態変化に応じ本人の実情に即した計画変更が実施されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望や状況に応じて、通院介助や買物などその都度出来る限りの対応を行なっている。医療連携加算の指定を受け、安心できる24時間体制を整備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週ごとの訪問診療や、定期的な病院受診、週1回の看護職員の巡回で利用者の健康管理を行っている。協力医療機関とは日常的に相談が可能な密な関係が構築されており、24時間の医療連携により、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制指針の中に「看取りの考え方」として事業所の対応の方向性を示し、利用契約の際には本人・家族に提示し、話し合いを行い、利用者の状態変化時には、医師の判断を頂き、方針について家族と話し合っている。	○	家族の不安や心配を軽減するため、重度化・終末期の介護について、できるだけ早期からの話し合いや、利用者の状態変化に応じて、その都度関係者間で話し合いを重ねて具体的内容での方針の共有を図りながら、利用者・家族が安心してサービスを利用できるよう対応の充実を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重した声掛けや介助、また情報引継ぎの際は本人が特定されぬ配慮や記録のイニシャル使用など、利用者のプライドやプライバシーに注意深く対応している。個人記録や書類の管理も徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ホームの業務や都合優先ではなく、利用者の体調やペースを大切に生活支援を心掛けている。利用者一人ひとりと常に会話を交わし希望や思いを汲み取り、できる限り本人の希望に添う支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれの役割として、食事の準備やテーブル拭き、配膳、後片付けなど一連の作業を職員と一緒にしている。職員は利用者と同席し、食事を取りながらさりげない声掛けで食事を促し、落ち着いて美味しく頂ける様子を気配りしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回、入浴の曜日を決めずに利用者の希望に合わせた入浴を支援している。心身の状況を考慮して見守りや介助を行い、身体の清潔保持を心掛けながらゆっくりと気持ちの良い入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や現状の力量を理解し、家事仕事の役割や野菜作り、ゲームや楽しみながらの体操、公園での花火大会、それらの思い出を季節飾りに作り上げるなど、利用者が楽しみや満足感を得られるよう支援し、毎日の生活活動が心身の力の維持や自立支援に繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出する機会が多く、近隣の散歩や買物、テラスでのティータイムや焼き肉会、また日帰り温泉ツアーや雪祭り見学など、利用者の喜びや気分転換の機会を様々に工夫し、支援に努力している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特に外出傾向と言える利用者は居られないが、職員の見守りで利用者の安全に配慮している。夜間は防犯上施錠しているが、日中は家族やご近所の方々が気軽に来訪できるよう開放されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は毎日「自主検査表」で日常点検を行い、日々防災の意識化を図っている。運営推進会議を活かし、災害時の地域の方々との協力関係が構築されている。事業所で避難訓練を実施し、利用者、職員全員で防災センターに出向き体験的な実践訓練も行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体組織の栄養士が作成し、食材購入が一本化され、栄養バランスを考慮した食事を提供している。食事の希望は栄養士に伝え食事なども楽しんでいる。個々の食事量や水分摂取量を把握し、刻みや粥食など利用者の状態に応じた個別支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は一般家庭と同様の雰囲気であり、事務所兼用の居間は、利用者が居心地よく過ごせるよう整理、工夫され、皆が集まりそれぞれの場所で寛いでいる。温度・湿度管理や陽光調整など利用者の不快感や刺激の軽減にきめ細かく対応している。写真や季節毎の利用者と職員の共同作品が飾られ、会話の弾む共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は大きさも様々であるが、利用者の馴染みの家具や好みの物品が持ち込まれている。利用者の身体状況や居心地よさ、また安全性に配慮し、一人ひとりの個性的な空間に工夫されている。		

※  は、重点項目。